

ひだまり だまり

2023 Vol. 14

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌

令和5年3月1日 第14号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

もくじ

学校教育課程での学び —コロナ禍での実習系科目—	1
後援会長あいさつ、就職・進学が決まった学生からメッセージ	2・3
教育文化学部就職活動支援（キャリア委員長）、就職内定状況	4
就職情報室を利用して	5
学生の支援とお願い（教務学生委員長）／ 学部長あいさつ／大学学部関係行事予定	6

学校教育課程での学び —コロナ禍での実習系科目—

学校教育課程は、教員免許を取得し、卒業後教員になることを目指す学生が数多く所属している課程です。課程には、教育実践コース、英語教育コース、理数教育コース、特別支援教育コース、こども発達コース、の5つのコースがあり、充実した授業科目によって、学生は日々学びに励んでいます。

教員になるために、各種の教育実習を行うことはもちろん必須なのですが、わが教育文化学部では、教育実地研究IからIVという4つの学部独自の实習科目を設置して、学生の教師力育成の充実を図っています。

教育実地研究IIは、秋田市による大変なご協力のもと、放課後に児童が利用している児童館等で、学生が実際に児童および児童館の先生から学ぶものです。教育実地研究IIIは、秋田市・秋田県による大変なご協力のもと、少年自然の家等で、宿泊を行う場において、児童・生徒とともに学生が寝食を共にし、児童・生徒および少年自然の家等の先生から学びます。教育実地研究III(学部3年生が対象)とIV(学部4年生が対象)は、どちらも秋田市内の小学校で、放課後、小学校の先生から学生が学ぶもので、秋田市の多大な協力のもとに実施できています。

教育実習はもちろんですが、これらの教育実地研究科目では、教育現場に学生が実際におもむいて活動しますので、入念な事前指導と活動先との打ち合わせを行って実施しております。2020年度、コロナウイルスが教育実地研究科目の前に

立ちほだかりました。

教育実習は、感染対策を徹底し、2020年度から毎年、なんとか実施してきました。しかし、教育実地研究科目は、2020年度、すべて休講とせざるを得なかったです。2021年度になり、I、IIIとIVは、感染対策を徹底したうえで、現地実習を行うことができ、2022年度も同様に実施することができました。ただし、IIの活動は、2021年度と2022年度は、現地実習を行わず、オンデマンド教材で学んでもらうこととなりました。2023年度からは、IIについても現地で学ぶことができるようになることを期待しています。

座学の授業科目はもとより、教育実習のみならず、上記の実習科目やその他のフィールドワーク科目により、学生は多様に学んでいます。現在はフィールドワークを伴う実習も再開できています。卒業生は、秋田県内をはじめ県外においても、教員となって活躍してくれています。ぜひ、今後も、教育文化学部と学校教育課程へのご支援とご協力をどうかよろしくお願い致します。

学校教育課程主任 石井 照久



附属小学校での教育実習の様子
(2022年9月8日撮影)



男鹿での生物学フィールド実習の様子
(2022年10月8日撮影)

勇気は無限の可能性

教育文化学部後援会 会長 土田 俊一

飛躍の卯年、令和5年が始まりました。教職員、会員の皆様におかれましては日頃から後援会活動にご理解、ご協力を賜りまして感謝申し上げます。またコロナ禍で一昨年、昨年と同様に後援会としての理事会、総代会は書面での会議となり、対面での交流がなかったことは残念に感じているところですが、卒業生の就職内定は上々であると同っており、就職情報室の設置を支援している後援会として喜ばしいことと思っております。

さて種々の災禍に見舞われ幾多の困難と対峙する現代社会ではありますが、前述のコロナ禍に関して国内に目を向ければ、国民の行動制限をはじめ、各種行事、イ

ベントなど社会経済活動も制約を解除しながら、「3年ぶり」をキーワードとして開催されてきております。受け止めるべき現状が変わり始めているということでしょう。今、私たちに求められるのは揺らぐことのない目的と変わりゆく世相を見据え、現状を見つめ直すということと、そこを自らの思いと努力で脱却していこうとする勇気ではないでしょうか。日常がよりどころとなるのは当然でありましょう。これにそれぞれの勇気を加え意識改革をする。意識が変われば、行動が変わり、行動が変われば、結果が変わります。それもひとつひとつの思いの集大成であれば、その可能性や在り方は無限であり、激動の今を進む社会の姿となっていくと思います。

卒業される皆様にはリアルタイムで経験したことと知識に勇気を加え、無限の可能性で未来を切り開いていけることを祈念しております。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

令和5年3月卒業の学生4名からメッセージをいただきました。保護者の方、学生のみなさんに参考になる内容です。

教員採用試験を振り返って

教育文化学部 学校教育課程

教育実践コース 茂木世界斗

私は千葉県・千葉市、秋田県の教員採用試験（小学校）に合格し、4月からは千葉県・千葉市で教員となる道を選びました。高校生からの自分の夢であった教員の道に進むことができ、大変嬉しく思っています。

今回は私が教員採用試験を受験するにあたって大切にされた方が良いと思うことをここに記します。まず1点目は進路を決めつけずに視野を広く持つことです。私は、「教員になるのであれば出身県の秋田しかないな」と決めつけたまま3年生まで過ごしてきました。しかし、県外の学校を受験した先輩からの話や、各自治体の取り組みを目にした際に「何も知らない県外で教員として働くこともきっと楽しいのでは？」とを感じるようになり、秋田県以外の自治体の情報収集を始めました。そこで、自身の先輩が働いていた千葉県・千葉市などの首都圏の自治体に興味を持ったため受験するに至りました。まずは各自治体の取り組みや先輩等の話を聞いてから教採対策を始めるのは1つの手だと思います。2点目は受験する自治体の情報収集を徹底することです。教員採用試験は自治体によって問題の出題傾向も全く異なります。例を挙げると、教科試験が千葉県・千葉市はマーク式、秋田県は記述式など異なるため教員採用試験の要項が出た際には試験内容を細かく見るのが大切です。そのため、問題演習も全国の自治体の過去問集を解き漁るよりも自分が受ける自治体の過去問を何周も

して精度を上げていくことが求められるのではないかと感じています。加えて各自治体の教育政策について問われる問題が筆答試験だけではなく面接でもよく聞かれることがあるのでおさえるようにしましょう。

最後に、自分が合格できたのは様々な人たちの支えがあったからこそだと思っています。今後は自分が受けた支えを子どもたちにしていくために教員として働く上での準備を徹底していきたいと思えます。また、これから就職活動、就職試験に向かっていく皆さんのことを心から応援しています。悔いのないように！

公務員試験を振り返って

教育文化学部 地域文化学科

地域社会コース 高橋 元気

公務員志望だった私にとって就職活動＝公務員試験でした。様々な官公庁を受験しましたが、最終的に総務省（国家一般職）から内定をいただきました。私が体験した就職活動について、具体的な活動内容、活動を通して感じたことの2点について書きたいと思えます。

はじめに就職活動の具体的な内容です。公務員試験は1次試験が肝要で、この筆記試験を突破しなければ、面接を受けさせてもらえません。そのため3年生の6月から約1年間試験勉強をしました。1次試験を通過すると、2次試験で面接があります。ですが、私が受験した国家一般職は1次試験合格者を対象とした官庁訪問と呼ばれる面接が2次試験とは別にあります。簡単に説明すると、2次試験は国家公務員としての資格

を得るための面接、官庁訪問は働く官庁から内定をいただく面接というイメージです。この官庁訪問がとても大変でした。朝から夜まで総務省の建物の中において、2日間で8回面接をしました。地下一階の講堂での待ち時間も緊張との戦いでまったく気が抜けませんでした。無事内定をいただけて、本当に嬉しかったです。

次に就職活動で感じたことですが、それは情報収集の大切さです。私は公務員専願で民間企業にはエントリーしませんでした。3年生の夏休みには民間の説明会やインターンシップに参加しました。それによって民間と公務員を比較でき、公務員の志望動機を深めることができました。また市役所のインターンシップにも参加しました。そこで学んだ政策について総務省の官庁訪問で話したところ、面接官の方が、日本で唯一の担当者だったということがありました。総務省にご縁を感じた瞬間です。苦しい試験勉強と並行しながら、視野を広く持って、情報収集をした成果だと思います。

私は就職活動で、教授や大学職員の方々に本当に助けられました。この場を借りて感謝申し上げます。在学生の皆さんの就職活動を東京から応援しています。

就職活動を終えて

教育文化学部 地域文化学科

地域社会コース 進藤 佳音

私は6月に県内企業から内定を頂きました。私の就職活動は業界・企業研究に始まり、大学3年の夏から企業説明会やインターンシップに参加しました。冬は主に適性テストの勉強に取り組みました。

2月に初めての選考が決まると、ESを出す前に、なぜその業界、企業を志望するのか、他との違いは何か、なぜ興味を持ったのか、入社後やりたいこと、目指す姿などを固めていきました。この時、自分の人生の目的を軸として持っておくと、一貫性のあるESになると思います。私の目的は、「生まれ育った秋田の発展に貢献すること」です。これらの作業は面接時にも役立つため、選考に臨む際のルーティンとなりました。その後、大学の就職推進担当の方や先生方にESの添削や面接練習をお願いし、選考に進みました。

就職活動を振り返り、在校生の皆さんにアドバイスしたいことが3つあります。

1つ目は、心に余裕を持つことです。私は前述したような事前準備や、1つの企業に絞らず就活を行ったことで、早めに内定を頂けたり、第1志望の選考にラックスして臨めたりしました。

2つ目は、主体的に動くことです。私の志望業界は、企業説明会やインターンを行う企業が少なかったため、企業に直接電話をしました。その結果、説明会やOB訪問など、お話を伺う機会を作ってくださいました。入社後のギャップを減らすためにも、情報収集は積極

的に行った方が良いと思います。

3つ目は、自己分析をしっかりと行うことです。幼少期からの自分の記憶と向き合い、どんなに小さくても良いので今の自分に通ずるエピソードを書き出します。ESを書く際や面接時に、具体的なエピソードがあると相手にわかりやすくなり、説得力が増すからです。

「あなたのその性格はいつからですか?」「なぜその考え方になったのですか?」面接官から実際に受けた質問です。自己分析をしていれば、焦ることなく答えられます。就職活動は大変だと思いますが、自分の過去のエピソードを「こんなこともあったなあ」と、息抜き程度に考えてみてください。

大学での学びを振り返って

教育文化学部 学校教育課程

教育実践コース 安藤のどか

私は、栃木県の教員採用試験に合格し、中学校国語科の教師として内定をいただきました。あわせて、自分の教師力を向上させるため、大学院進学者に対する特例制度を利用し、秋田大学大学院・教育学研究科のカリキュラム・授業開発コースへの進学を決めました。

本学では、教育実践コースに所属し、講義や実習、ボランティア活動に参加することを通して学びを深めてきました。3年次の公立小学校での教育実習では、授業における机間指導の重要さや、子どもとの関わり方を学び、教師の指導言ひとつで子どもたちの学びを変えることから、やりがいを実感することができました。また、特別支援教育への興味・関心から、特別支援学校教諭の免許も取得しました。4年次での附属特別支援学校での実習では、「できた」をみとること、子どもたちのよいところを伸ばすことについて学ぶことができました。そしてその経験は、教員採用試験においても自分の強みとしていかすことができました。

大学院進学にあたっては、進学後の学びを充実させるため、6年一貫プログラム特別履修生として4年次から現職院生と学部卒の院生の先輩方とともに、大学院の授業へ参加しています。そこでは、現職の先生方や、教員採用試験を乗り越えた先輩方とともに学ぶことができ、より現場に即した教育課題について向き合うことができています。ぜひ、教職大学院へ興味のある方は、挑戦してみてください。

最後に、振り返ってみると、多くの授業や実習、試験勉強など両立することは簡単ではありませんでしたが、秋田大学だからこそ出会えた仲間、素晴らしい先生方、大学職員の方々のおかげで採用試験も大学生活も無事終えようとしています。これからは大学院での学びに励むことで、感謝の気持ちを表していきたいと思っています。在学生の皆さんには「自分から学ぶこと」を大切に、悔いの残らない学生生活にしてほしいと思います。応援しています。

教育文化学部就職支援と学生の就職状況について

キャリア委員会委員長 林 良雄

本学部学生への就職支援については、本学部の教員で組織しているキャリア委員会と大学の学生支援・就職課とが協力して行っています。学部学生の就職先は大まかに分けて教員、公務員、一般企業となっているため、それぞれの就職について対応しているところです。以下にその活動について説明いたします。

教員については通常の授業で学ぶ内容を十分身につけていることが最低限必要ですが、それ以上に、教員になる熱意や教員としてやっていけるか、が面接や模擬授業等で確かめられます。そのため、授業外において、次のような取り組みを行っています。

- ・スタージュ（小論文、教養、実技対策を行ったりOB・OG教員、合格した先輩に話を聞く会を催します）
- ・教職自主ゼミ（現在の教育課題について解説したり、面接指導を行います）
- ・オータムキャンプ（3年生の秋にスタージュ参加者が集まり、一日かけて、教員としての心得や先輩の模擬授業を見聞し、教員になるモチベーションを高めていきます）
- ・スプリングキャンプ（4年生の春にスタージュ参加者が集まり、一日かけて、模擬面接など教員採用試験に向かうための最終チェックと士気を高めていきます）

これらの取り組みでは、本学の教員以外にベテランの元教員の方々にもご協力をいただき、そのノウハウを伝えていただいています。

公務員については、座学での試験勉強は授業で培った知識や自学で行っていただくこととなりますが、本学部では次のような取り組みを行っています。

- ・就活スタート講座（一般的な就職活動のスケジュールなどについて、紹介します）
- ・先輩と語る会（採用試験に合格した先輩の話を直接聞く機会を用意しています）
- ・面接練習（学生支援・就職課などに申し込めば面接練習ができます）

一般企業については、次のような全学の様々な支援や本学部の独自の支援を行っています。

- ・就職セミナー、業界研究セミナー（インターンシップ、就職のスケジュールや気をつける点、様々な業界を知るための説明会を大学の学生支援・就職課が中心となって、きめ細やかに行っています）
- ・就活スタート講座（学部生に向けて、インターンシップ、就職のスケジュールや気をつける点などについての説明

会をキャリア委員会が企画します。）

- ・先輩と語る会（内定した先輩の話を直接聞く機会を用意しています）
- ・面接練習、エントリーシートの添削（学生支援・就職課や学部の教員が随時個別対応します）

これら多方面にわたる支援に加え、これを強力にサポートし、また、就職活動に関する悩み事を学生に寄り添って聞いてくれる「就職情報室」が教育文化学部にはあります。ここには二人の職員が配置され、親身になっているような相談に乗ってくれています。就活学生のオアシスになっていると言える場所です。この就職情報室の運営費の一部は後援会費でまかなわれており、皆様には感謝申し上げます。学生たちが更に気軽に利用できる環境をつくって参りますので、お子様にも積極的に利用するよう、お話しいただけると幸いです。さて、次に就職状況についてです。

まず教員ですが、報道でもご存じのとおり、小学校中学校ともに採用試験の倍率が大変低下しております。そのため、教員になる夢はとて叶いやすい状況です。ただし、誰でも合格するのではなく、やはり、教員としての資質がなければ合格はできません。しっかりと準備をしなければならぬのはいうまでもありません。

公務員については、地域文化学科の学生40名近くが合格しています。最近の公務員採用試験の傾向は面接重視ということですが、大仙市では1次試験がSPIと自己PR、2次試験以降面接試験で、細かい知識より、人物重視となってきています。「政策立案のできる創造的な能力のある人」、「チャレンジ精神を持った人」などが求められ、「安定している」や「なんとなく」でなりたいという人はとても合格できなくなっています。

企業ではコロナ後を見据えて採用活動が活発となっています。今年は昨年よりかなり早い時期に内定を得られた学生が多かったようです。更に近年の傾向はインターンシップの活用です。3年生夏にインターンシップを開催し、その出席者には先行採用枠を設けるなどのところも出てきています。今後、インターンシップでの学生の情報を活用した採用が公式に認められるようになってくるので、注目しておく必要があります。

以上のような活動を行っておりますが、この数年はコロナの影響を受けてオンラインを使いながら、手探りでやってきた状況です。今後はアフターコロナをにらんで対面を含む支援活動を強化していく予定です。後援会の皆様にはお子様のより良い就職のために、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

2月末データ

就職内定状況

学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他	
			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女		
教育文化学部	学校教育課程	106	11	89	37	52	79	28	51	88.8%	75.7%	98.1%	6
	地域文化学科	103	6	95	30	65	93	29	64	97.9%	96.7%	98.5%	2
	小計	209	17	184	67	117	172	57	115	93.5%	85.1%	98.3%	8
教育学研究科	23	0	18	13	5	17	12	5	94.4%	92.3%	100.0%	5	
合計	232	17	202	80	122	189	69	120	93.6%	86.3%	98.4%	13	

就職情報室を利用して

教育文化学部 学校教育課程

特別支援教育コース1年次 林 滉之介

私が就職情報室を利用したきっかけは、自分の将来について自分ひとりで考えることに疲れてしまったからです。自分が将来どう生きていきたいか、漠然とした目標はあるものの、具体的にどのような行動をおこせばよいかわからず、自分の将来に役立つ情報やアドバイスが欲しくなり、就職情報室を訪れました。

就職情報室に行けば自分の進路選択に役立つ様々な情報を得ることが出来るだけでなく、就職情報室を訪れる学生のため親身になって接してくれる職員の方々がいらっしゃいます。私が就職情報室を利用したときも職員の方たちは暖かく、さまざまな相談に乗ってくださいました。

また就職情報室には、就職や教員採用試験に関する最新の情報を頂けるガジェットメール、さらには過去に就職活動を終えた先輩方の報告書や各種試験対策用の本がそろっているの、活用してみましょう。

最後に、後援会の皆様には、これまでたくさんの支援をして頂き本当にありがとうございます。皆様のおかげで、自己実現のため学業に取り組むことが出来ております。今後ご支援のほど、よろしく願いいたします。

教育文化学部 地域文化学科

地域社会コース2年次 村上 杏

2年生の5月、それまで公務員という選択肢一択だった私は、他の選択肢も考えたいという思いから就職情報室を利用し始めました。今では就職活動全般の相談だけでなく、学校生活のことなど様々な相談ができる場として利用させていただいています。



就職情報室は、教育文化学部3号館1階にあります。学生のみならず、是非お気軽にご利用ください。

就職情報室には、過去の先輩方が残してくださった記録や就職に関するイベントなど、数多くの情報があります。それによって自分が関心のある業種だけでなく、あまり関心がなかった業種についても情報を得ることができるため、視野を広げるにつながっています。また、親しみやすく、温かい職員の方々がいらっしゃり、いつでも自分のことのように真剣に相談にのってくださいます。「就職活動を何から始めたらいいかわからない」という人はぜひ就職情報室を利用してみてください。きっと何か収穫があるはずです。

末筆になりますが、後援会の皆様のご多大なるご支援のおかげで、私たちは充実した大学生活を送ることができています。誠に感謝申し上げます。今後ご支援のほど、よろしく願いいたします。

創立150周年の節目の 年を迎える教育文化学部

旭水会会長 千葉 昭



教育文化学部は、令和5年度(2023)創立150周年の節目の年を迎えます。学部の前身である秋田県伝習学校が明治6年(1873)9月に開設されたのが始まりです。

現在「旭水会」は、学校教育課程・地域文化学科・教職大学院(教職実践専攻・心理教育実践専攻)の同窓会です。大学卒業後の会員のみならず在学中も同窓会誌「旭水」の配布、体育・文化活動への助成、海外研修・留学等の事業基金、生活支援にも協力しています。また、卒業祝賀会(学長はじめ多数の大学教員の参加)を開催し晴れの門出を祝福すると共に同窓会員の応援活動も積極的に実施しています。

「旭水会」は、会員の納入会費で事業を実施しています。卒業生の就職先が多岐にわたり、しかも全国に広がっています。新型コロナウイルス感染拡大禍のため卒業祝賀会や新入学生保護者説明会が実施できず、卒業2年目以降の会費未納者が増加しているのが現状です。対応策として今年度の入学生から「入会費1万円」を廃止して「同窓会費として3万円」を納入していただき、卒業後正会員として15年間同窓会費納入済み会員としました。新入学生・保護者の皆様には、改めてご理解頂きご協力をお願いいたします。

今年度の卒業祝賀会の開催と4月の新入学生保護者説明会が実施できますことを切に願っています。

学生の支援とお願い

教務学生委員長 和泉 浩

教務学生委員会は、学生のみなさんが、きちんと授業を受け、卒業できるようにするために、授業の履修や学生生活をサポートする教員の委員会です。総合学務課教育文化担当の職員とともに学生をサポートしています。取得単位数の少ない学生や欠席が目立つ学生を確認して担任（各学生には主担任と副担任がいます）等を通じて相談や指導も行っています。必要なときは「保証人」のみなさまに連絡することもあります。

日本での成年年齢は明治9年（1876年）から140年以上、20歳と民法で定められていましたが、民法が改正され、2022年4月1日から成年年齢が20歳から18歳に変わりました。このため大学でも「保護者」ではなく、「保証人」という表現を使うようになっていきます。

みなさまがこの文章をお読みになっているとき、どのような状況になっているかはわかりませんが、感染が治まったわけではないとはいえ、新型コロナウイルスにたいする社会の対応にある程度の落ち着きが見られるようになり、大学でも今年度（令和4年度）の後期から「対面」での授業が多くなり、もとの状態とは少し違ってはいますが、学生たちのいるキャンパスに戻ってきています。またコロナ後も見据え、多様なツールを用いた新たな授業のあり方についても大学で検討しています。コロナによって一時期、通常の授業ができなくなりましたが、同時にオンラインツールなどの活用によって大学の授業や活動の新たな可能性も広がっています。

教育文化学部は、実習や地域との連携活動、調査・研究を通して秋田県内の幼保や小中高等学校、特別支援学校など教育等にかかわる施設や機関、行政機関や企業などとさまざまなかわりを持っており、みなさまのなかにもお世話になっている方々が多くいます。まさに地域に支えられている学部です。こうした実習や活動もコロナの影響を大きく受けましたが、これらもコロナによって新たな展開も可能になっています。

教育文化学部では学生と教員が多くの活動を行っていますが、以下の写真は、今年度たまたま私が撮影したもので、能代市で開催された総合計画市民協働会議に参加している学生たちの様子です（男女共同参画を感じさせる会議の様子です）。こうした地域のさまざまな場で、学生たちが学び、また鍛えられています。これ以外の学生たちの様子については、ぜひ学部のホームページをととき見てください。子どもの成長とともに学校での様子がしだいにわからなくなっているのではないかと思います。学生たちがどんなことを学び、どんな活動をしているのか、その一端を知っていただくことができるはず。みなさまに学部に関心を持ってもらえることが、学生の支援と教育文化学部には不可欠です。よろしくお願いいたします。



令和4年度能代市総合計画市民協働会議に参加した地域文化学科の学生たち

150周年に向けての期待

教育文化学部長 上田 晴彦

秋田大学教育文化学部の源流を辿ると、1873年創立の秋田伝習学校に行き着きます。そのため来年度（2023年度）は創立150周年という、記念すべき年度となります。創立150周年記念事業の一環として、秋田伝習学校から現在までの足跡を記録としてとどめる目的から、「150年誌」を発刊する予定でいます。現在は関係資料の収集、および関係各位への執筆依頼をおこなっている最中であり、原稿が出来上がるのを待って編集作業を行い、発刊したいと考えています。資料収集を続ける際に当時の資料を読んでいると、いつの時代にも人々の変わらぬ喜びと苦勞が偲べれます。一方で現存しない過去の校舎や鬼籍に入られた諸先輩方の写真を見ていると、時代の流れの速さを感じます。特に平成に入ってからの変化の激しい時代になっているうえ、少子高齢化がどんどん進んでいる状況でもあるので、本学部の将来像を描きにくくなっています。ともすれば自分たちの姿を忘れそうになりますが、自己が拠って立つ基盤となるのは、これまで培ってきた伝統であると考えています。我々の過去の姿に対する理解を深め、それらを尊重しながら、新しい未来を切り開いていく力としたいと思っています。そして「自分達が世の中の主人公である」という、自己肯定感を高めることを意識しながら、日々歩んでいきたいと思っています。

大学・学部関係行事予定（令和5年3月～）

- 3月 23日 秋田大学卒業式
- 4月 1日 前期開始
- 4月 3日 春季休業終了
- 4月 4日 在学生ガイダンス
- 4月 5日 入学式
- 4月 6日 新入生ガイダンス
- 4月 7日 前期・第1クォーター授業開始
- 6月 1日 創立記念日
- 6月 9日 第2クォーター授業開始
- 8月 9日 夏季休業開始（10月1日（日）まで）
- 9月 30日 前期終了
- 10月 1日 後期開始
- 10月 2日 後期・第3クォーター授業開始
- 12月 4日 第4クォーター授業開始
- 12月 26日 冬季休業開始（1月8日（月）まで）
- 2月 17日 春季休業開始（4月3日（水）まで）
- 3月 22日 卒業式
- 3月 31日 後期終了

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌

ひだまり
Vol.14

令和5年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
地域連携委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊

<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>